

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境マネジメント

環境マネジメント

基本的な考え方

気候変動や生物多様性をはじめとした地球環境問題は、企業が存続していく上で最も大きなビジネスリスクの一つであると同時に、解決すべき社会課題であり、新たなビジネス機会を生み出すものでもあります。ダイフクは 2011 年に『ダイフク環境ビジョン 2020』を策定し、「あらゆる事業活動において環境に配慮するとともに、環境負荷の少ないマテリアルハンドリングシステムの継続的開発・提供を通じて、お客さま、社会、そして地球環境の保全に貢献すること」を表明しています。

また、ビジョン達成に向けた重点対策として「事業運営における環境配慮活動の推進」「環境配慮製品・サービスの拡充」「環境経営基盤の強化」の3つを掲げ、それぞれに 2020 年までの目標を設定しています。

本テーマのマテリアリティと関連する SDGs 目標

マテリアリティ

- ・ 事業運営における環境配慮活動の推進
- ・ 環境配慮製品・サービスの拡充
- ・ 環境経営基盤の強化

CSR アクションプラン KPI・2020 年目標

- ・ CO₂ 排出量 総排出量 生産・オフィス（2005 年度比）：41% 以上削減
- ・ CO₂ 排出量 生産・オフィス（2005 年度比 売上高原単位）：72% 以下
- ・ グローバル CO₂ 排出量（2011 年度比 売上高原単位）：50% 以下
- ・ 廃棄物排出量（2005 年度比 売上高原単位）：72% 以下
- ・ 水使用量（2005 年度比 売上高原単位）：57% 以下
- ・ グローバル水使用量（2011 年度比 売上高原単位）：40% 以下
- ・ エコプロダクツ認定数：63 製品
- ・ 製品・サービスによる CO₂ 削減貢献量：100,000 t-CO₂
- ・ エコアクション参加者数：8,000 名
- ・ D-EMS（Daifuku-Eco Management System）の全社展開率：100%



ダイフクが目指す SDGs 目標

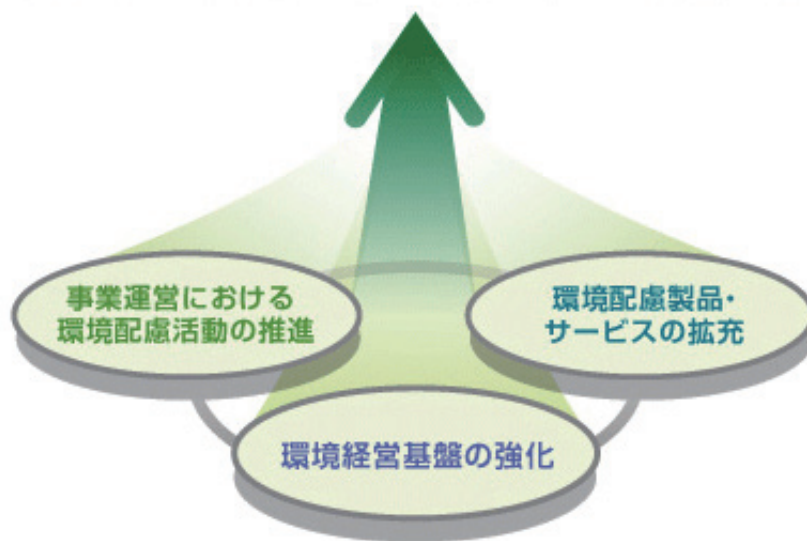
ダイフク環境ビジョン 2020

基本メッセージ

お客さま、社会、そして地球への環境貢献

私たちダイフクは、あらゆる事業活動において環境に配慮するとともに、環境負荷の少ないマテリアルハンドリングシステムの継続的開発・提供を通じて、お客さま、社会、そして地球環境の保全に貢献してまいります。

お客さま、社会、そして地球への環境貢献



ビジョン達成に向けた重点対策

1. 事業運営における環境配慮活動の推進

- ・ 事業活動から排出する二酸化炭素（CO₂）を削減します。
- ・ 省エネルギー・省資源、再生可能エネルギー導入、生物多様性保全など多くの課題に取り組み、環境負荷の低減と地域社会との調和を図ります。

2. 環境配慮製品・サービスの拡充

- ・ ダイフク環境基準に適合した環境配慮製品・サービスを開発し、広く社会に提供します。
- ・ 環境配慮製品・サービスの普及により社会における CO₂ を削減します。

3. 環境経営基盤の強化

- ・ 環境教育の拡充を図り、従業員一人ひとりの環境マインドを醸成します。
- ・ ダイフクグループ全体での環境貢献拡大に向けて、国や地域を越えたグローバルな環境経営体制を構築します。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境マネジメント

2020 年の達成目標

テーマ		対象範囲	2020 年目標
事業運営における 環境配慮活動の推進	地球温暖化防止 (CO ₂ 排出量低減)	国内	CO ₂ 総排出量 生産・オフィス (2005 年度比) 41% 以上削減 CO ₂ 排出量 生産・オフィス (2005 年度比 売上高原単位) 72% 以下 CO ₂ 排出量 製品輸送 (2005 年度比 売上高原単位) 78% 以下
		グローバル	CO ₂ 排出量 (2011 年度比 売上高原単位) 50%以下
	省資源	国内	廃棄物排出量 (2005 年度比 売上高原単位) 72% 以下 廃棄物のリサイクル率 99% 以上 水使用量 (2005 年度比 売上高原単位) 57% 以下
		グローバル	水使用量 (2011 年度比 売上高原単位) 40% 以下
	生物多様性保全	国内	“結いプロジェクト” を起点とした独自の生物多様性保全の継続実施
	グリーン調達		サプライチェーンでの環境負荷物質の継続的削減
環境配慮製品・サービスの拡充		グローバル	ダイフクエコプロダクツ認定 63 機種以上の認定 CO ₂ 削減貢献量 100,000 トン以上
環境経営基盤の強化	環境教育		エコアクションの運用拡大による環境マインドの醸成 参加者数 8,000 名
	環境経営体制		グローバル環境経営体制の確立と継続 D-EMS の全社展開率 100%

* 詳細は PDF ファイルをご覧ください。

> [ダイフク環境ビジョン 2020] [PDF](#) (154 KB)

推進体制

『ダイフク環境ビジョン 2020』の達成に向け、環境経営課題に対する最高意思決定機関として、CEO を委員長、各事業部門長を委員とするグループ横断的な「サステナビリティ委員会」を組織しています。同委員会では、気候変動をはじめ様々な課題への対策について、経営トップ自ら活動方針や計画実行の指示を行っています。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境マネジメント

環境行動プラン

KPI

> **KPI** (Key Performance Indicators) は CSR アクションプランの達成度を判断するための評価指標です。 [PDF](#) (524 KB)

目標と実績

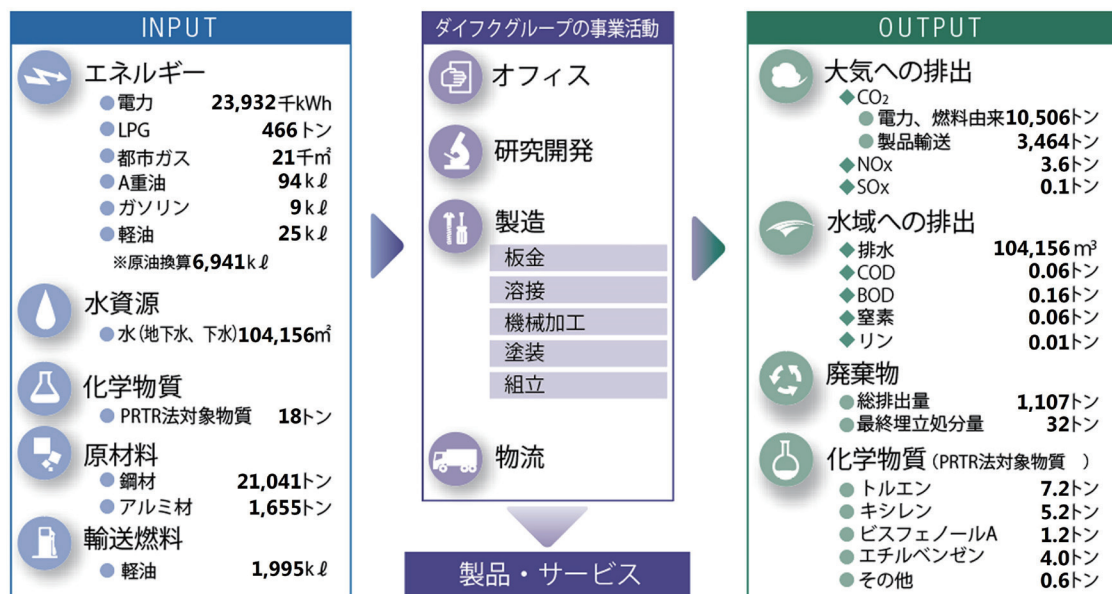
テーマ	取り組み方針と主な取り組み	対象範囲	管理指標	2020 年度目標	2020 年度実績	評価
事業運営における 環境配慮の推進	地球温暖化防止	国内 (生産・オフィス)	CO ₂ 総排出量 2005 年度比	41% 以上削減	59.1% 削減	○
		国内 (製品輸送)	CO ₂ 排出量 2005 年度比 売上高原単位	72% 以下 78% 以下	29.0% 50.8%	○
		グローバル	CO ₂ 排出量 2011 年度比 売上高原単位	50% 以下	42.3%	○
	省資源	国内 (生産・オフィス)	廃棄物排出量 2005 年度比 売上 高原単位	72% 以下	47.5%	○
			廃棄物の リサイクル率 (有価含む)	99% 以上	99.2%	○
			水使用量 2005 年度比 売上 高原単位	57% 以下	23.7%	○
	生物多 様性保 全	国内 (生産・オフィス)	—	・“結いプロジェクト” を 起点とした独自の生物 多様性保全の継続実 施	・ヤマトサンショウウオ 保全 (移植・飼育) ・環境省モニタリングサ イト 1000 里地調査 ・トンボ保全・モニタ リング	○
				・サプライチェーンでの 環境負荷物質の継続 的削減	・サプライヤーの環境 負荷排出実態の把握	△
	グリーン 調達					
	環境配慮製品・ サービス拡充		ダイフクエコ プロダクツ認定	・ 63 機種以上の認定	・ 70 機種の認定	○
			CO ₂ 削減 貢献量	100,000 トン -CO ₂	72,474 トン -CO ₂	×
環境経営基盤の 強化	環境 教育	グローバル	—	・ エコアクションへの参 加延べ 8,000 人以上 (イベント、講演、自 主活動の国内外グ ループへの展開)	・ エコアクションへの参 加延べ 7,122 人	×
	環境 経営 体制			・ D-EMS の全社展開率 100% ・ グローバル委員会設 置	・ D-EMS の全社展開率 96.3% ・ 環境イベントの実施 (フォトコンテスト) ・ サステナビリティ委員 会設置	×

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境マネジメント

マテリアルバランス

事業活動で発生する環境影響を把握し、環境負荷の改善に努めています。



環境会計

環境保全にかかわるコストと効果を定量的に把握し、環境会計を実施しています。

環境保全コスト（事業活動に応じた分類）

分類			投資額		費用額	
			2019 年度	2020 年度	2019 年度	2020 年度
事業エリア内コスト	公害防止コスト	1. 大気汚染防止のためのコスト	—	—	22,850	52,160
		2. 水質汚濁防止のためのコスト	31,877	33,228	80,662	73,924
		3. 土壌汚染防止のためのコスト	—	—	0	0
		4. 振動・騒音防止のためのコスト	—	—	0	0
	地球環境保全コスト	5. 省エネのためのコスト	260,255	93,444	196,313	206,037
		6. 化学物質管理のためのコスト	—	—	704	1,226
	資源循環コスト	7. 資源の効率的利用のためのコスト	—	—	1,007	1,007
		8. 産業、一般廃棄物処理コスト	5,081	4,200	49,394	28,744
上・下流コスト	9. 普通の製品とグリーン購入（調達）製品の差額		—	—	1,920	1,920
管理活動コスト	10. 環境マネジメントシステム運用コスト		—	—	42,253	42,631
	11. 環境情報の開示、環境広告コスト		—	—	3,655	4,195
	12. 環境負荷監視コスト		20,986	2,720	6,966	6,956
	13. 従業員への環境教育コスト		0	0	17,732	9,298
研究開発コスト	14. 研究開発コストのうち、環境保全に関するコスト		—	—	178,720	183,300
社会活動コスト	15. 自然保護、緑化、美化等のコスト		2,669	21,202	49,338	53,051
	16. 環境保全を行う団体等に対する寄付、支援のためのコスト		—	—	5,320	5,080
環境損傷対応コスト	17. 環境に与えた損傷に対して生じたコスト		—	—	0	0
合計			320,869	154,794	656,834	669,530

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境マネジメント

環境保全対策に伴う経済効果（実質的効果）

(千円)

効果の内容	2019 年度	2020 年度
有価物売却	55,792	56,200
エネルギー費の節減	33,136	69,592
廃棄物処理費の節減	▲ 10,597	2,985
合計	78,331	128,777

環境保全効果

項目	2020 年度	前年度比削減量 (▲は増加)	前年度比売上高原単位 (%)
総エネルギー投入量 (千 GJ)	269.0	2.6	93.6
CO ₂ 排出量 (トン・CO ₂)	10,506.0	436.0	90.8
廃棄物総排出量 (トン)	4,166.0	782.0	79.6
廃棄物最終処分量 (トン)	32.0	6.0	79.6
総排水量 (千 m ³)	104.2	20.8	78.8

環境マネジメントシステム認証取得の状況

国内外の主要な生産拠点において環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001 の認証を推進しています。国内においては 3 拠点の全てで、海外においては 15 拠点で認証取得した拠点にて生産しています。生産拠点数に占める認証取得比率は 72% です。

認証規格	生産拠点数 (連結)	うち認証拠点数	認証比率
ISO14001	25	18	72%

> 認証取得拠点一覧

TCFD 提言に基づく気候リスクと機会の開示

2019 年 5 月 10 日に TCFD 提言への賛同を表明し、提言に沿った情報開示を行っております。ステークホルダーとの対話を通じて、気候変動に対する自社の取り組みを促進し、持続的な成長を目指してまいります。

> ダイフクグループの気候変動情報開示 [PDF](#) (1.6 MB)> 上記文書内にある新たな環境ビジョンについてはこちらをご覧ください。 [PDF](#) (335 KB)

> 賛同企業リスト (経済産業省ウェブサイト)

※ TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) : TCFD は、Task Force on Climate-related Financial Disclosure の略称で、各国の中央銀行総裁および財務大臣からなる金融安定理事会 (FSB: Financial Stability Board) の作業部会で、効率的な気候関連財務情報開示を企業等へ促す民間主導のタスクフォース。

気候関連団体の加盟状況

ダイフクグループは、2021 年 2 月に策定した「ダイフク環境ビジョン 2050」達成に向けて、気候変動問題の解決を目指す各団体に加盟し、情報共有や政策提言の働きかけなどに関与しています。

加盟団体

気候変動イニシアティブ

日本気候リーダーズ・パートナーシップ (賛助会員)

TCFD コンソーシアム

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境配慮製品・サービス

環境配慮製品・サービス

ダイフクエコプロダクツ認定制度

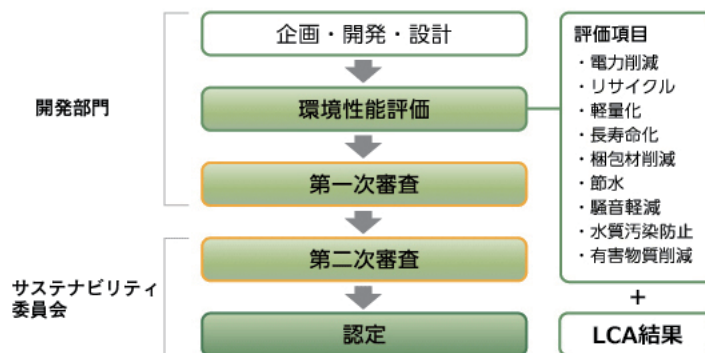
KPI

2012 年より独自基準で製品の環境性能評価・認定制度「ダイフクエコプロダクツ認定制度」を運用しています。本制度では、グループ全製品を対象に「電力削減」「リサイクル」「軽量化」「長寿命化」「梱包材削減」「節水」「騒音軽減」「水質汚染防止」「有害物質削減」について性能を評価しています。2021 年 5 月現在、基準を満たした 70 製品を「ダイフクエコプロダクツ」として認定しています。



認定フロー

多様な観点から評価の妥当性や信頼性を確保するため、異なる事業部門の担当役員で組織する環境配慮製品委員会が審査します。



目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境配慮製品・サービス

認定製品一覧（認定年度）

一般製造業・流通業界向けシステム

- ・パレット自動倉庫「シャトルラック D3（ディースリー）」（2020）
- ・ケース仕分け装置「クロスベルトソーター」（2020）
- ・ビーム式ワイドトラス ラック（2019）
- ・ケース自動倉庫「ファインストッカー」（H-P10）（2019）
- ・ケース自動倉庫「スマートストッカー クアトロ」（2018）
- ・ケース自動倉庫「シャトルラック」（SRS-M ダブルディープ）（2018）
- ・高速搬送台車「ソーティングトランスビークル」（2017）
- ・高能力ピッキングステーション「クイックピックステーション」（2017）
- ・スタッカークレーン「ラックマスター」（2015、2016）
- ・自動倉庫「ラック減振ユニット」（2016）
- ・組立式ラック（2015）
- ・ケース自動倉庫「シャトルラック」（2013、2014）
- ・長尺物用自動倉庫（2014）
- ・搬送システム「モーターローラコンベヤ」（2013）
- ・ケース自動倉庫「ファインストッカー」（2012）

半導体・液晶生産ライン向けシステム

- ・6世代液晶パネルカセット搬送コンベヤ（2020）
- ・クリーンルーム用保管システム「クリーンストッカー」（CLS-50ⅡECO）（2019）
- ・10世代液晶パネルカセット搬送コンベヤ（2018）
- ・Green HID誘導線500m（2017）
- ・クリーンルーム用機器「メカ式センタリング装置」（2016）
- ・クリーンルーム用搬送システム「クリーンスペースキャリア」（2013、2015）
- ・クリーンルーム用搬送システム「クリーンウェイ」（2014）
- ・クリーンルーム用搬送・保管システム「MMHS」（MMHS：Matrix Material Handling System）（2013）
- ・クリーンルーム用保管システム「クリーンストッカー」（2012）

自動車生産ライン向けシステム

- ・ドライブスルー型トラックステーション「TRTS（トータス）」（2020）
- ・フレキシブルドライブシステム用標準コントローラ「FDC」（2019）
- ・自動車生産ライン向け「タブレット型操作盤」（2018）
- ・台車搭載用昇降装置「クロスアームリフト」（2017）
- ・チェンレス搬送システム「フレキシブルドライブシステム」（2016）
- ・一時保管・仕分けシステム「SPDR（スパイダー）」（2015）
- ・パレット式搬送システム「フレキシブルドライブシステム」（2014）
- ・電力アシストシステム「ECO POWER ASSIST」（2013）
- ・電車搬送式塗装システム「E-DIP」（2012）

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境配慮製品・サービス

洗車機・関連商品

- ・ドライブスルー洗車機「ツインフェクトリーシア」(2020)
- ・門型洗車機「ファブリカ NEO」(2019)
- ・門型洗車機「アヴァンテ NEO」(2019)
- ・省スペース門型洗車機「ゼクス」(2018)
- ・連続洗車機「マジックスルー」(2017)
- ・大型洗車機「カミオンカスタム」(2017)
- ・ドライブスルー洗車機「ツインフェクトフィート」(2016)
- ・ドライブスルー洗車機「ツインスルー ルーク」(2016)
- ・ドライブスルー洗車機「ファブリカ」(2015)
- ・ドライブスルー洗車機「アヴァンテ」(2015)
- ・門型洗車機「フレア」(2014)
- ・門型洗車機「グロッサ」(2014)
- ・ドライブスルー洗車機「ツインフェクト フォース」(2013)
- ・ドライブスルー洗車機「ツインスルー アルテノ」(2013)
- ・門型洗車機「ユーロス」(2013)
- ・ドライブスルー洗車機「グラナダ」(2012)
- ・門型洗車機「ジスペクト」(2012)

電子機器 (株式会社コンテック)

- ・ボックスコンピュータ (BX-U200) (2020)
- ・ボックスコンピュータ (BX-M1500) (2020)
- ・積層信号灯計測機 (CPS-PAV-AE01-JP) (2020)
- ・絶縁型アナログ入力ユニット (AI-1608VIN-USB) (2019)
- ・パネルコンピュータ (PT-970W10WA) (2019)
- ・ボックスコンピュータ (機種:BX-T1000) (2018)
- ・高性能高速型 GPIB 通信 マイクロコンバータ (機種:GPIB-FL2-USB) (2018)
- ・FA パソコン (機種:VPC-700) (2018)
- ・M2M コントローラ「CONPROSYS nano」(2017)
- ・RS-232C 通信ユニット (2017)
- ・耐環境スイッチングハブ (2016)
- ・蓄電池対応計測システム「SolarView Battery」(2016)
- ・EtherCAT スタック型コントローラ (2016)
- ・小型ボックスコンピュータ (2015)
- ・M2M コントローラ (2015)
- ・太陽光発電システム「SolarView Compact」(2014)

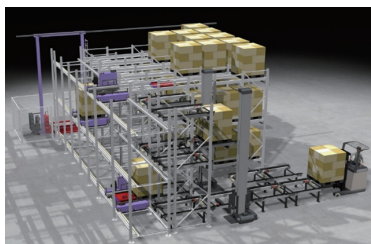
2020 年度認定製品

パレット自動倉庫「シャトルラック D³ (ディースリー)」

電力削減

CO₂ 削減

軽量化



シャトルラック D³ は、少品種多量保管に適したパレット自動倉庫です。入出庫リフタで各層に荷物を搬送し、それぞれに配置した親台車、子台車でラックに格納します。従来のスタッカークレーンでの運用に比べ、ラックの奥行方向に複数の荷物を格納できるため、格納効率が大幅に向上しました。また、走行と昇降の機能を分けたことで走行部を軽量化し、従来より消費電力を削減しました。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境配慮製品・サービス

ケース仕分け装置「クロスベルトソーター」

電力削減

CO₂ 削減



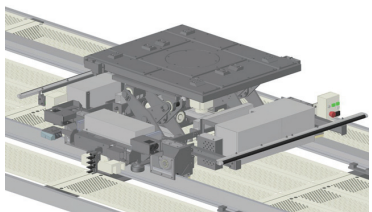
クロスベルトソーターは、ベルトコンベヤを搭載した台車をつないでループ状に構成した高能力ケース仕分け装置です。ベルトコンベヤへの給電は台車車輪の回転を利用し、発電モーターから行うことで高効率に電力を供給。従来より消費電力を削減しました。

6世代液晶パネルカセット搬送コンベヤ

電力削減

CO₂ 削減

軽量化



第6世代の液晶パネル製造工程で、カセット単位でガラスを搬送する装置です。従来モデルの性能・剛性を維持しつつ低床化・軽量化を実現するため、構造や形状を見直し部品点数を36%、重量を21%削減。これにより消費電力を39%、CO₂排出量を40%削減しました。また、レール構造を変更することで工期の短縮も図れます。

ドライブスルー型トラックステーション「TRTS（トータス）」

CO₂ 削減



ドライブスルー型トラックステーション「TRTS」は、トラックへの荷積み・荷降ろしを自動で行う設備です。フォークリフトを使わずに荷積み・荷降ろしすることで、ドライバーの作業負担を軽減。トラックの待機時間も通常約40分から約10分へと大幅に短縮できます。また、トラックの運行台数やドライバー人数の最適化により稼働率が向上します。

ドライブスルー洗車機「ツインフェクトリーシア」（機種：TFR200）

電力削減

長寿命化



ツインフェクトリーシアは、セルフスタンド向けドライブスルー洗車機です。従来機からの特長である高い乾燥性能と短時間洗車に加え、受付パネルに15インチの大型液晶タッチパネルを採用。また、交通系の電子マネー・QR・クレジットカードでのキャッシュレス決済が可能となり、視認性と利便性が向上しました。環境面では、撥水洗車の乾燥工程において、乾燥性能を低下させずに走行スピードを調整することで使用電力を削減しました。

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境配慮製品・サービス

ボックスコンピュータ（機種：BX-U200）

電力削減

軽量化

梱包材削減



周辺機器との接続箇所を必要最小限に抑え、小型・軽量化を実現した産業用ボックスコンピュータです。実装 IC 部品の集積化、板金部品や梱包材の一体化を図り、従来比で消費電力を 43%、重量を 53%、梱包材を 56% 削減しました。

ボックスコンピュータ（機種：BX-M1500）

電力削減

軽量化



高性能 CPU をファンレスで運用可能とした産業用ボックスコンピュータです。TDP35W の CPU を搭載し、ヒートシンク放熱技術により回転駆動部品を排除した設計。消耗品のファンをなくし筐体サイズを小型化、エネルギー消費も抑え、従来比で消費電力を 42%、重量を 31% 削減しました。

積層信号灯計測機（機種：CPS-PAV-AE01-JP）

電力削減

梱包材削減



積層信号灯の点灯状態を光センサで計測し、低消費無線でデータ送信する計測ユニットです。データを収集することで設備の稼働状況が見える化します。低消費無線の採用や起動時間の制御により省電力化を行い、他社製品比で消費電力を 83% 削減。また、梱包材を見直し重量を 2.5% 削減、省資源化を図りました。

LCA（ライフサイクルアセスメント）

2015 年度から環境配慮設計のツールとして LCA（life cycle assessment）手法を導入しました。自社内製品の新旧比較することで製品・サービスの環境配慮設計の高度化に役立てています。

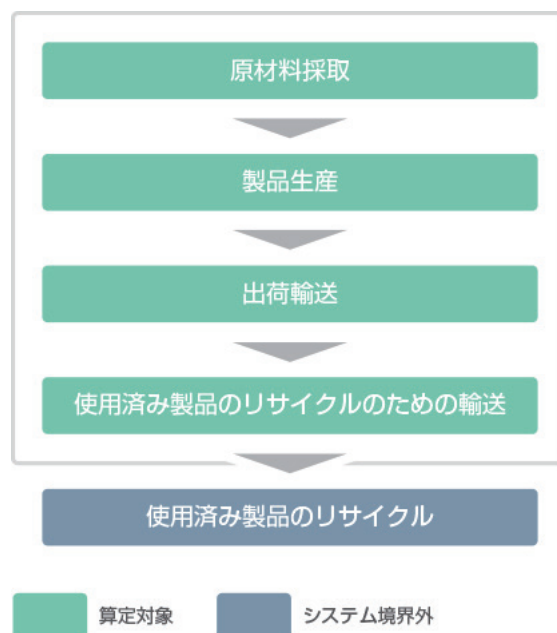
当社製品「ニューグッラック」（重量物用保管棚）の LCA 実施結果

標準的な代表モデル仕様

幅（W）	2,500mm
奥行（L）	1,100mm
高さ（H）	5,000mm
段数	ビーム 3 段（最大積載質量：2,000kg/ 段）
連結	10 連結



1. LCA 算定範囲



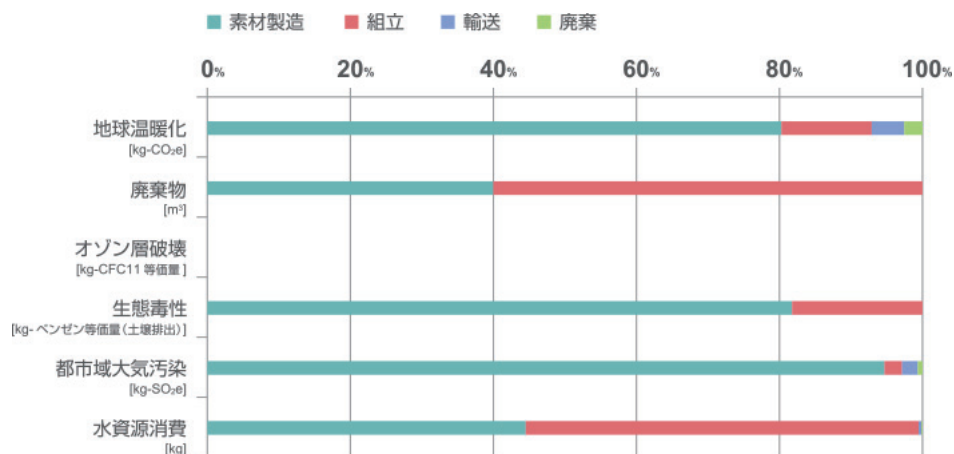
2. インパクト評価

本調査で対象とした 6 つの影響領域について、ライフサイクル段階別にインパクト評価を行いました。また、環境影響領域別に新旧製品の比較を行いました。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

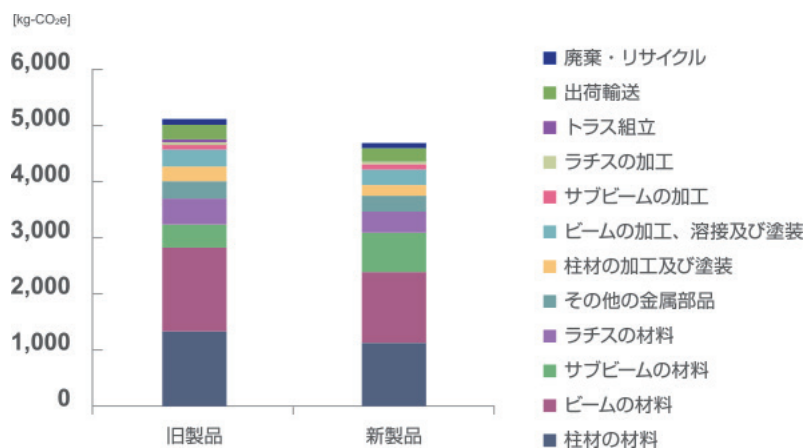
目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境配慮製品・サービス

ライフサイクル段階別のインパクト評価結果のまとめ



- ・「地球温暖化」「生態毒性（陸生）」「都市域大気汚染」については、素材製造段階の寄与が80%以上となりました。
- ・「廃棄物処分場の枯渇」「水資源消費」については組立段階の寄与が60%程度と過半を占めました。
- ・「オゾン層破壊」については、今回の算定条件では明確な影響がありませんでした。
- ・輸送段階および廃棄段階の影響は調査対象としたすべての環境影響領域で寄与が小さかったです。

新旧製品の比較（地球温暖化）



- ・新製品の環境影響削減率は7.4%でした。
- ・環境影響削減には主としてトラスとビームの軽量化が貢献しています。

CO₂ 削減貢献

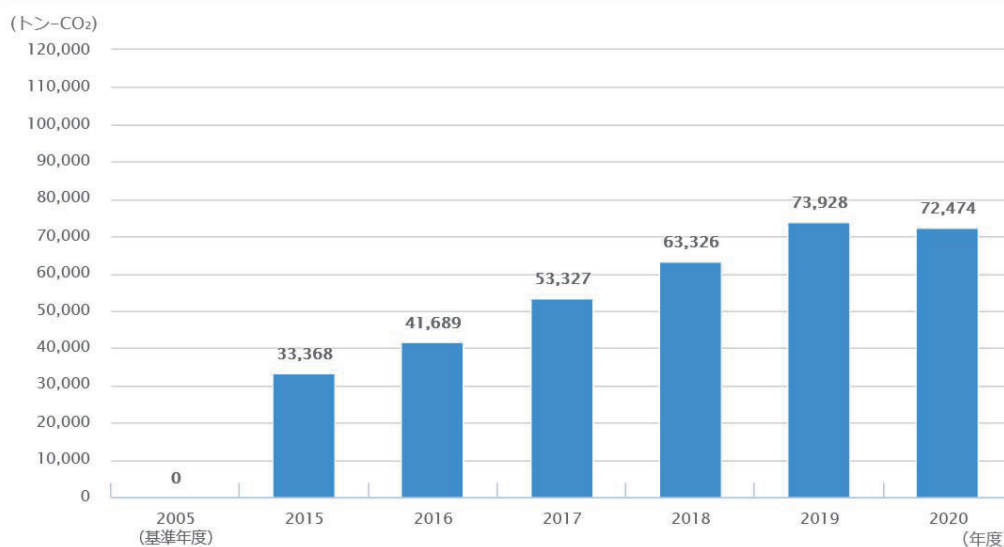
KPI

グループ環境基準に適合する環境配慮製品・サービスによって社会で消費される CO₂ を削減しています。

CO₂ 削減貢献量は、社会に存在するダイフク製品・サービスから排出されるすべての CO₂ 排出量を、基準年度である 2005 年時点の製品・サービスの環境性能による CO₂ 排出換算量から差し引いた量で算出しています。

今回、グループ目標全体の約 8 割を占める IL 事業部門と CR 事業部門において、2005 年時と比較した省エネ型商品の比率が当初目標を下回ってしまったため、2020 年度目標の 100,000 トン -CO₂ に対し、72,474 トン -CO₂ と未達になりました。サステナビリティ委員会において対策を共有の上、お客さま先での生産や物流工程からの CO₂ 排出を極小にすべく、ご提供するあらゆる製品システムへの省エネ技術の開発、および導入に注力していきます。

環境製品の CO₂ 削減貢献量



目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 省エネルギー

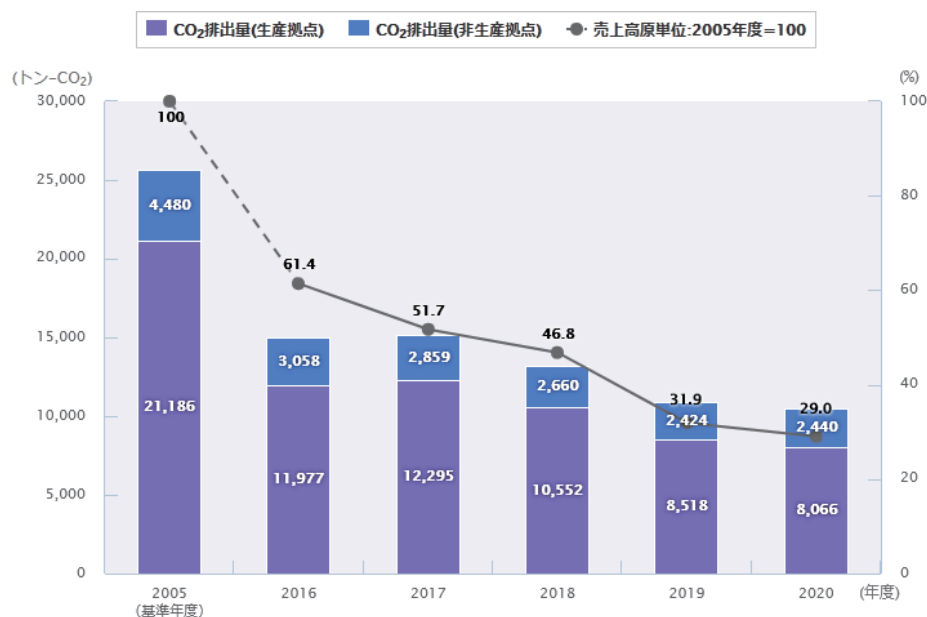
省エネルギー

CO₂ 排出量およびその低減対策

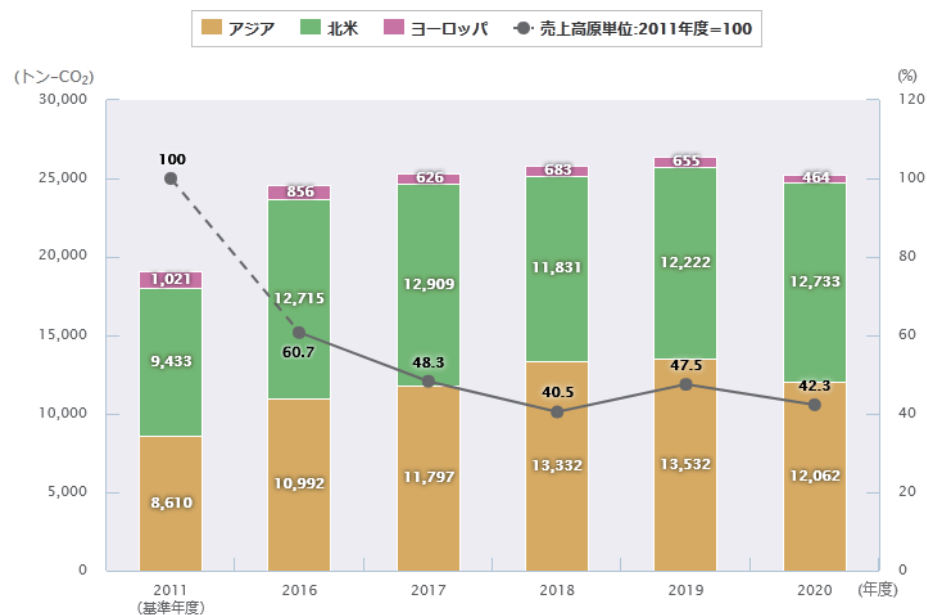
KPI

グループの目標（2005 年度比 41% 以上削減）に対して 59.1% 削減できました。また、売上高原単位目標（2005 年度比 72% 以下）についても、29.0% と大幅に目標を達成しました。今後も継続して事業活動における運用改善、設備改善を推進していきます。

CO₂ 排出量（国内）



CO₂ 排出量（海外）



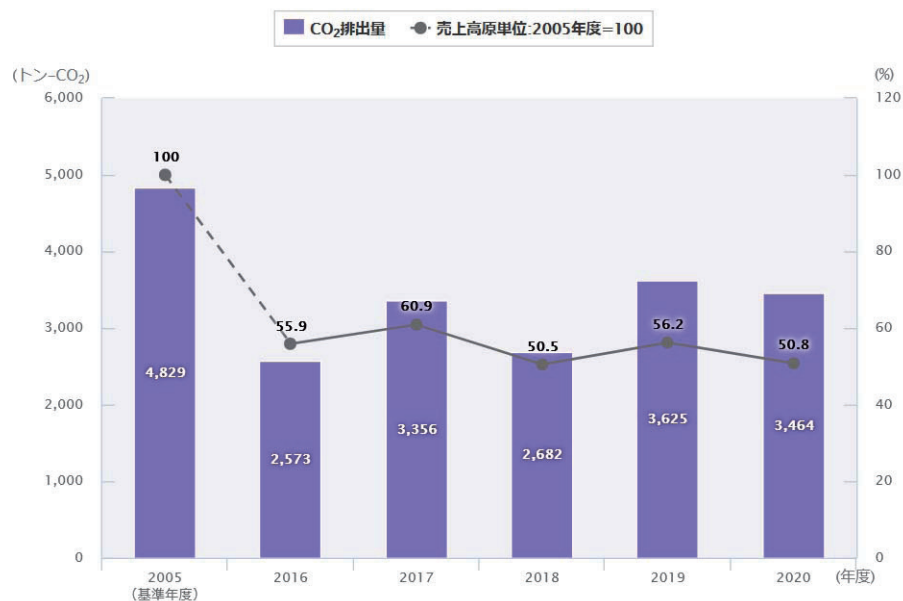
目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 省エネルギー

輸送に関わる環境負荷の状況

2020 年度の製品物流に伴う CO₂ 排出量の売上高原単位は、グループの目標 2005 年度比売上高原単位 78% 以下に対して 50.8% となり大幅に目標を達成しました。引き続き荷姿や輸送方法の改善、個別輸送から巡回集配輸送への変更、モーダルシフトの採用など、効率的な輸送による環境負荷低減に取り組めます。

輸送にかかわる CO₂ 排出量



スコープ 3

当社を取り巻くすべての活動から排出される温室効果ガス (CO₂) の削減に取り組むため、サプライチェーン全体の CO₂ 排出量 (スコープ3) を算出しています。

2020 年度のスコープ3は、1,421,314 (トン-CO₂) で、スコープ 3 が占める割合は、99% となりました。

また、スコープ 3 の中では、「販売製品の使用」の CO₂ 排出量が 68% を占めていました。

今後は、算出対象カテゴリの算定方法の精度を向上させるとともに、「販売製品の使用」の CO₂ 排出量削減に向け、ダイフクエコプロダクツ (環境配慮製品) の開発・販売に注力いたします。

スコープ 1:

事業活動で直接排出した温室効果ガス (化石燃料など)

スコープ 2:

事業活動で間接排出した温室効果ガス (電力、熱利用など)

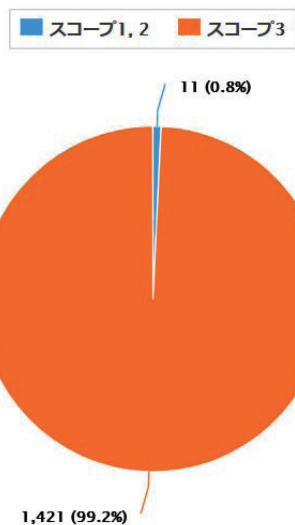
スコープ 3:

事業活動のサプライチェーンで間接的に排出した温室効果ガス (購入した製品・サービス、製品使用など)

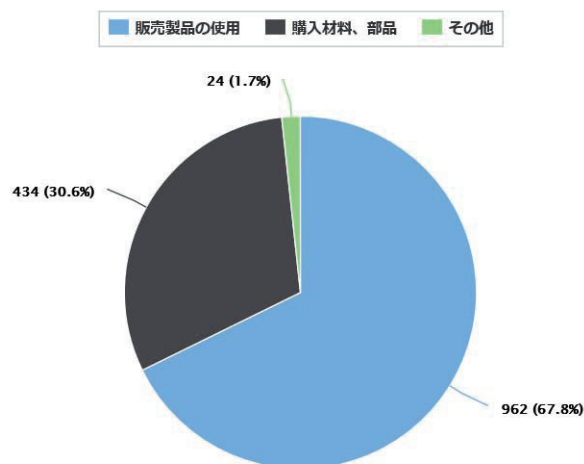
目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 省エネルギー

サプライチェーン全体 CO₂ 排出量 (千トン -CO₂)



スコープ 3 CO₂ 排出量 (千トン -CO₂)



(注) 四捨五入の関係で内訳の和が合計と一致しない場合があります。

省エネルギーの取り組み

私たちの CO₂ 削減活動は、業務の改善から日常生活、通勤・移動に至るまで多岐にわたります。CO₂ 排出の大きな要因である電気と熱エネルギー使用状況については、毎月のデータを監視し対策を施しています。

「日に新た館」に太陽光発電システムを設置



屋上に設置したソーラーモジュール

滋賀事業所内にあるマテハン・ロジスティクス総合展示場「日に新た館」では、2010年3月から太陽光発電システムを導入しています。2020年度は、約21万kWhを発電し、70トンのCO₂削減に貢献しました。

ダイフク滋賀メガソーラー



5万2,000平方メートルの太陽光パネル

2013年11月、滋賀事業所内に太陽光発電システム「ダイフク滋賀メガソーラー」を設置しました。1万7,752枚のパネルによる最大発電容量は4,438kW（滋賀県最大級）におよび、年間約430万kWh（一般家庭1,000世帯分の年間電力使用量に相当）の発電（電力事業者へ売電）を行っております。

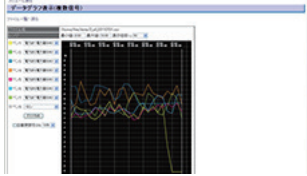
クールビズ、ウォームビズの実施

全国の事業所において、昼休みや定時後の消灯を徹底。加えて空調の室温設定を夏季28℃、冬季20℃とすることにより、環境への配慮だけでなく快適な労働環境の実現を図りました。また、夏季はノー上着、ノーネクタイ、冬季は室内着の着用を奨励しています。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 省エネルギー

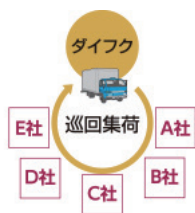
生産設備の " エネルギー見える化 " システムの導入



数値をグラフ化して表示する

滋賀事業所内の工場では、電力とガスのエネルギー使用量が常時監視できるシステムを導入しています。パソコン上に数値がグラフ化して表され、生産ラインでのエネルギー使用状況がひと目で把握できます。これを常時チェックすることで、省エネを目的とした運用改善や設備改善の必要性を導き出します。

共同輸送の活用



ミルクラン方式 * で地域内の取引先を巡回集荷する

部品材料のお取引先とパートナーシップを構築し、コストダウンと的確な納期管理を目的とした集配業務のサービスに取り組んでいます。各社がそれぞれで輸送していた荷物を、集荷情報の集中管理と物量コントロールにより地域単位ごとにトラック 1 台で巡回し、物流拠点の集約化と合理化を図ります。各社の物流コスト削減はもちろん、サプライチェーン全体での CO₂ 排出量を削減することにより、地球温暖化の防止に貢献しています。

* ミルクラン方式

取引先から個別輸送で納品されていた物品を、巡回して集荷すること。積載効率を高めることができ、燃料資源の節減と二酸化炭素の排出量削減にも貢献できます。

モーダルシフト * の活用

製品の輸送手段は、トラック輸送が中心となりますが、環境負荷の少ない鉄道および海上へ輸送方法を転換するモーダルシフトに取り組んでいます。納期調整とコスト管理により物流品質を確保し、可能な限り輸送面での CO₂ 削減に努めています。2020 年度はモーダルシフトにより CO₂ を 265 トン削減しました。

* モーダルシフト

自動車や航空機による輸送を、鉄道や船舶による輸送に転換し、CO₂ の排出削減を図ること。

カーボン・オフセット *

マテハン・ロジスティクス総合展示場「日に新た館」の運営に関わる電力使用量、液化石油ガス (LPG) 使用量、同館送迎バスの軽油 (バイオディーゼル燃料) 使用量から算出した年間 CO₂ 排出量、および来館者 1 名あたり 1.5kg の CO₂ (計 204 トン -CO₂:2020 年度) の 100% カーボン・オフセットを実施しました。

* カーボン・オフセット

自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、クレジットを購入すること等により、その排出量の全部又は一部を埋め合わせること。

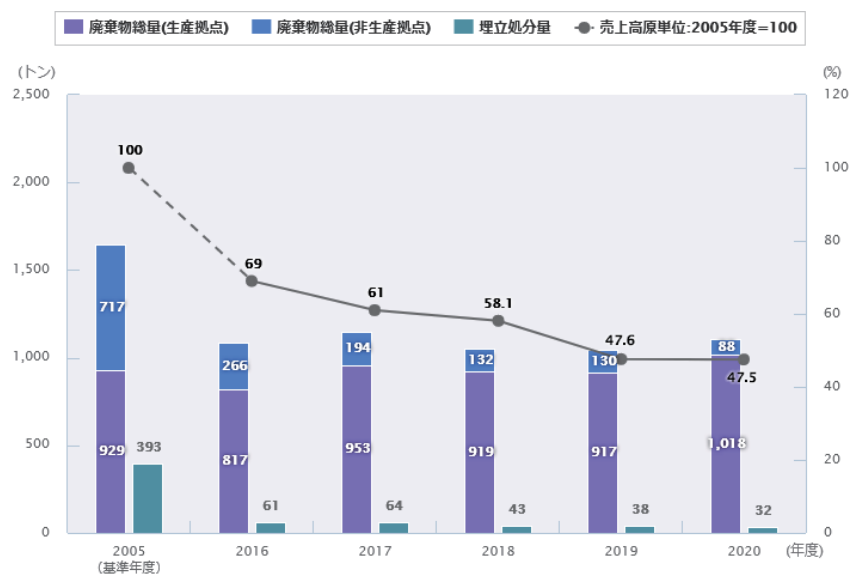
省資源

廃棄物排出量及びリサイクル率

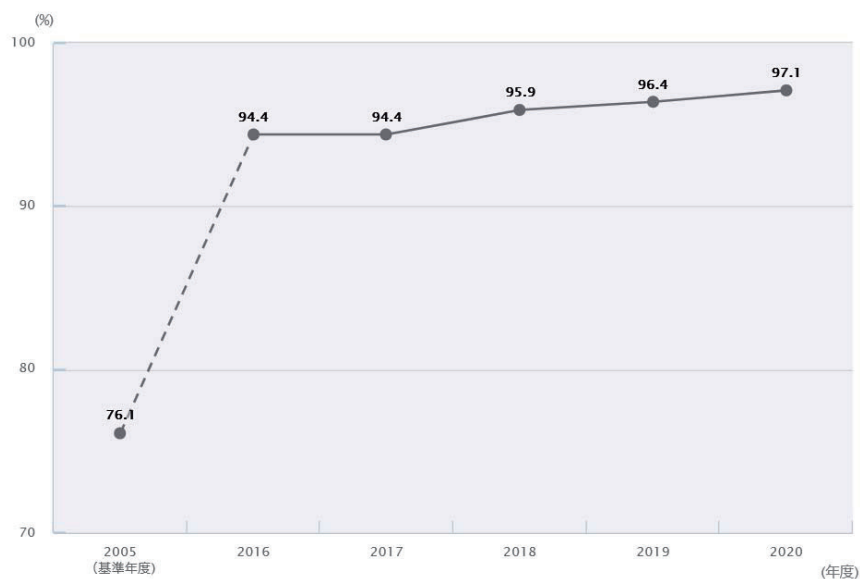
KPI

2020 年度の廃棄物排出量の売上高原単位は、グループ目標（2005 年度比 72% 以下）に対して 47.5% と目標達成となりました。一方、廃棄物のリサイクル率目標（99% 以上）に向けた活動では、分別の徹底による埋立処分の削減を行いました、97.1% と目標未達成となりました。なお、2018 年度より廃棄物は、有価物を除いた数量で算出しています。

廃棄物総量（国内）



廃棄物リサイクル率（国内）



目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

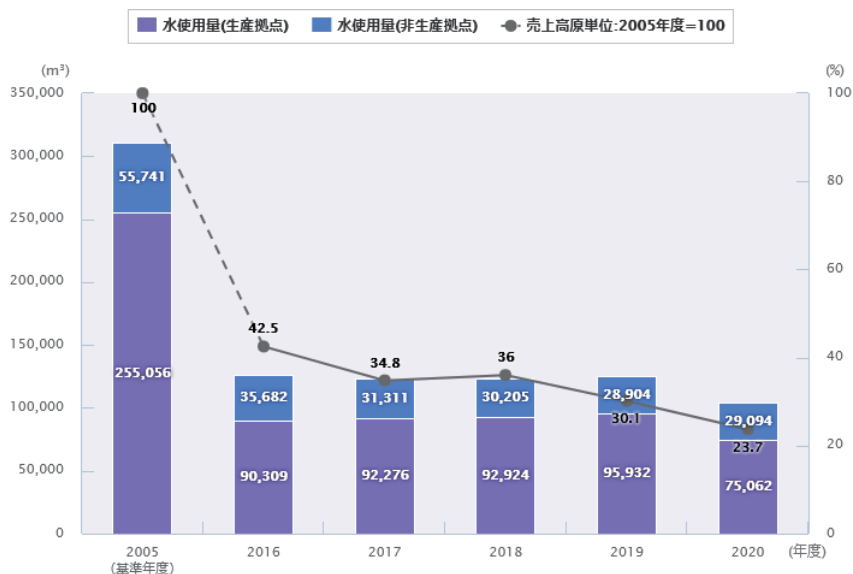
目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 省資源

水使用量の削減

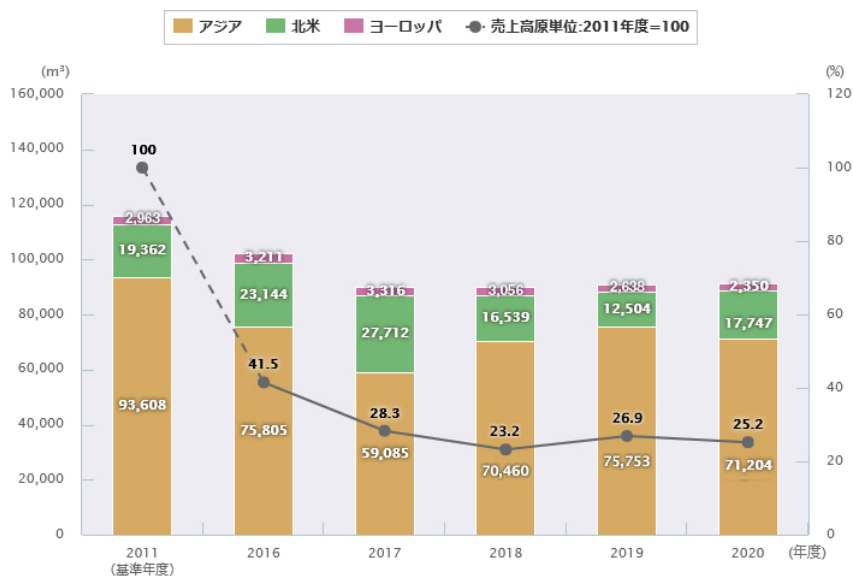
KPI

グループ全体の水使用量の約 8 割を占める生産拠点において、特に生産ラインにおける塗装工程の見直し(粉体塗装からメッキ塗装へ)や節水型洗車機の開発などにより、その結果、全社の 2020 年度の水使用量は、グループ目標 (2005 年度比売上高原単位 57% 以下) に対して 23.7% 削減と大幅に目標達成できました。

水使用量 (国内)



水使用量 (海外)



目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 省資源

省資源の取り組み

廃棄物処理委託業者の適正処理確認



当社社員による現地確認

事業活動により発生する廃棄物は、法律に基づき適正に処理されなければなりません。廃棄物の処理を許可業者に委託する場合でも、その処理責任は排出した事業者が負います。委託する業者は社内の廃棄物管理規程により厳正に審査し決定していますが、同時に当社の社員を現地へ派遣し、廃棄物処理の状況を年一回確認するように努めています。

廃棄物の再利用（リユース）



社員食堂の廃食油回収状況

滋賀事業所では、3カ所の食堂および社員の家庭から出る天ぷら油を回収し、バイオディーゼル化して日に新館の送迎バスの燃料として利用する取り組みを行っています。

プラスチックごみ削減対策



給水機とステンレスボトル

2019年7月、Webb Canada社は、ペットボトル入り飲料水の提供をやめて、プラスチックごみを削減するという目標を打ち出しました。これに伴いハミルトン工場では、センサー式の給水機を設置し、全従業員にステンレスボトルを配布しました。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境汚染防止

環境汚染防止

化学物質の管理

PRTR 法への対応

生産活動の中で使用する化学物質は主に塗料・有機溶剤で、PRTR 法 * に該当する特定化学物質の現場管理と使用量の管理を行っています。

用語解説

* PRTR 法 (Pollutant Release and Transfer Register) : 「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」事業者が化学物質を環境中へどれだけ排出しているか国に届け出ることにより、化学物質の自主的な管理と環境汚染の未然防止を目的とした法律。

PRTR 法対象化学物質 排出・移動量

滋賀事業所

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
排出・移動量 (kg)	30,010	18,969	27,223	23,765	18,531	16,880

2020 年度 PRTR 法対象化学物質 取扱量

滋賀事業所

(kg)

管理物質 番号	化学物質名	取扱量	排出量					移動量		
			大気への排出	公共用水域への 排出	土壌への 排出	埋立処分	排出量合計	下水道への 移動	その他の 移動	移動量 合計
37	ビスフェノール A	1,208.70	*****	*****	*****	*****	*****	*****	24.17	24.17
53	エチルベンゼン	3,938.65	3,938.65	*****	*****	*****	3,938.65	*****	*****	*****
80	キシレン	5,140.67	5,140.67	*****	*****	*****	5,140.67	*****	*****	*****
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	412.36	412.36	*****	*****	*****	412.36	*****	*****	*****
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	139.77	139.77	*****	*****	*****	139.77	*****	*****	*****
300	トルエン	7,194.19	7,194.19	*****	*****	*****	7,194.19	*****	*****	*****

(注) 年間取扱量 100kg 未満の化学物質については、微量として割愛しました。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境汚染防止

水質汚濁防止

国内での水使用量の約 8 割を占める滋賀事業所では、3 箇所の廃水処理施設による 24 時間常時監視体制を整備し、滋賀県条例、日野町との公害防止協定で定められた排水基準の遵守を徹底することで、農業用水としての水質維持を図っています。また、近隣住民を招き廃水処理施設や処理状況などの徹底した水質管理体制の見学の機会を設け、利害関係者との良好な関係づくりにも役立てています。



水質調査の様子

水質汚濁は、土壌、農作物、生活環境などに幅広く影響を与える重要な問題であると認識し、事業所からの排水に対しては、法規制の遵守はもちろん、細心の注意を払って管理、削減に努めています。

2020 年度放流水水質実測結果

滋賀事業所（水質汚濁防止法、県条例、日野町公害防止協定）

測定項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
排水量 (m ³ /日)	-	398.5	27.7	262.6
PH	6.0 ~ 8.5	7.4	6.9	7.1
SS (mg/ℓ)	20 以下	2.6	0.5	1.1
COD (mg/ℓ)	20 以下	1.7	0.1	0.6
BOD (mg/ℓ)	20 以下	2.0	0.1	1.6
全リン (mg/ℓ)	1 以下	0.1	0.1	0.1
全窒素 (mg/ℓ)	10 以下	0.9	0.5	0.6

(注) 平均は加重平均値とする。



排水処理場



処理前（左）と処理後（右）の排水

汚泥をセメント原料へ

滋賀事業所の廃水処理施設では、安定した水処理を維持する上で、発生する汚泥の処理が必要となります。施設から引き抜かれた脱水汚泥を乾燥機にて処理し、含水率 20% の乾燥汚泥にしています。これにより、汚泥容量が大幅に減少し、廃棄物処理コストも削減でき、また乾燥汚泥はセメント原料として有効に活用されています。



汚泥再資源化施設



乾燥汚泥

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境汚染防止

大気汚染防止

滋賀事業所は、滋賀県の大気環境への負荷の低減に関する条例第 25 条第 1 項に基づき、「大気環境負荷低減計画 実施事業場」に指定されており、ばい煙による大気汚染物質の管理、削減に努めています。

2020 年度大気汚染物質実測結果

滋賀事業所（日野町公害防止協定）

物質	施設	規制値	実績		
			最大	最小	平均
ばいじん (g/m ³ N)	発電機	0.1	0.009	0.005	0.007
硫黄酸化物 (SOx) (m ³ N/h)	発電機	2.3	0.080	0.010	0.047
窒素酸化物 (NOx) (ppm)	発電機	950	830	700	762

グリーン調達

グリーン調達ガイドラインの運用

環境に配慮した製品をつくることは、グローバルに事業展開している当社の使命と考えています。「入れず・使わず・出さず」をモットーに、2005 年 11 月より「グリーン調達ガイドライン」を策定し、省資源・省エネルギー・再利用可能な材料・商品を優先的に購入しています。

> グリーン調達ガイドライン [PDF](#) (590 KB)

欧州の有害物質関連規制への対応

欧州の化学物質規制「REACH 規則*」に焦点を当てグループ一体となって、製品に含有する有害物質の見える化と排除を推進しています。グリーン調達ガイドラインの運用を通じて、サプライチェーン全体で連携しながら、今後も一貫した環境配慮型製品の提供に努めます。

* REACH 規則 (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) : 欧州域内で製造・販売する製品に含まれる化学物質について、行政への登録や安全性評価を義務付けた規制。

食堂での地産地消

滋賀事業所内 3 カ所の食堂では、2014 年 8 月より毎週地元の食材を使用したメニューの提供を開始しました。地元名産の日野菜、栄養たっぷりの濃厚たまご（永源寺産）など、バリエーション豊富に取り揃えて提供しています。この取り組みは、運送に伴う CO₂ の排出を少なくする『フード・マイレージ低減活動』として今後も継続します。



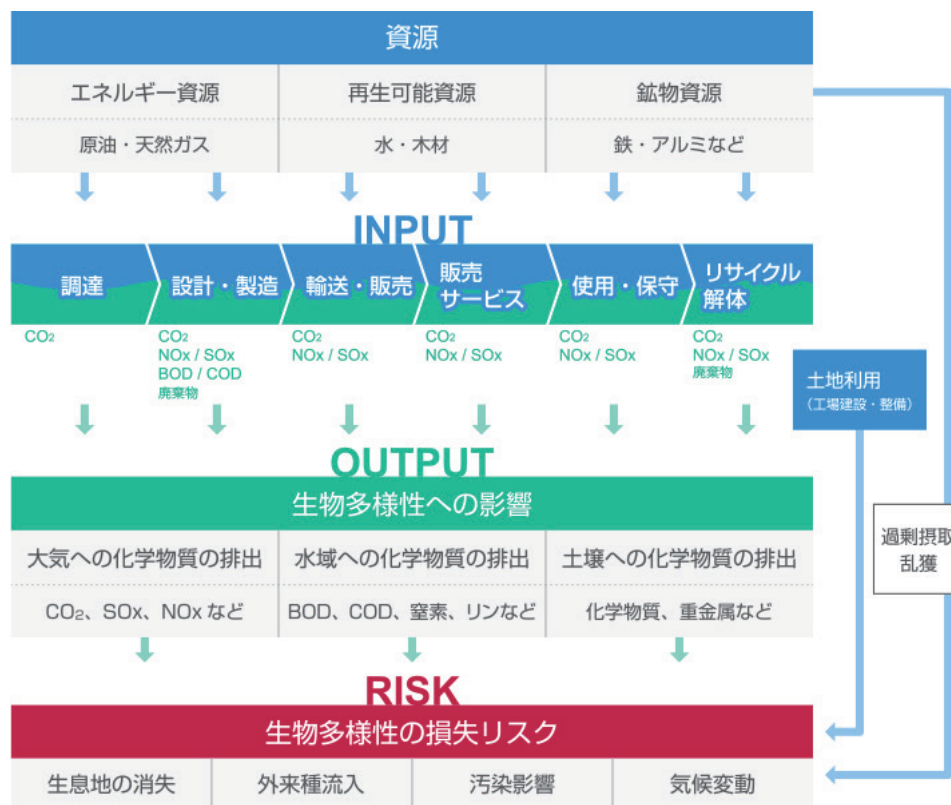
目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 生物多様性保全

生物多様性保全

ダイフクと生物多様性の関連性

ダイフクでは、事業活動と生態系との関係性を明確にするため、製品プロセスや土地利用などと生態系との関係を一覧できる「ダイフクと生物多様性の関係性マップ」を作成しています。このマップにより、現在は、自然豊かな滋賀事業所での土地利用における生態系への影響に注目し、生物多様性に配慮した活動を中心に行っています。



滋賀事業所での保全活動

滋賀事業所は滋賀県下最大級の敷地面積を有する工場で、事業所内の生態系調査の結果、700 種以上の在来種と 50 種以上の絶滅危惧種や希少種が確認されています。この豊かな自然環境を将来に引き継ぐとともに、社内外のコミュニケーションを促進するために「結いプロジェクト」を発足し、さまざまな保全の取り組みを進めています。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 生物多様性保全

生態系調査結果（絶滅危惧種、希少種）

分類	種和名	種類
鳥類	ヨシガモ、カイツブリ、コチドリ、ハイタカ、ノスリ、コシアカツバメ、ビンズイ、ウソ、ハヤブサなど	27
両生類	ヤマトサンショウウオ、ニホンアカガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル	4
爬虫類・哺乳類	ニホンイシガメ、カヤネズミ	2
昆虫	キイロサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、トラフトンボ、ハルゼミ、トゲアリ、カトリヤンマ、ヨツボシトンボ、コノシメトンボ、コガムシ、キトンボ	11
魚類	ギンブナ、ドンコ	2
植物	コヒロハハナヤスリ、コムラサキ、イヌタヌキモ、キキョウ、オケラ、ヒメコヌカグサ、キンラン	7
合計		53



ハヤブサ



ヤマトサンショウウオ



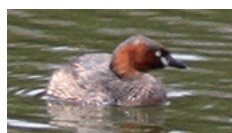
ニホンイシガメ



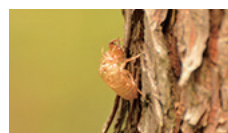
オグマサナエ



キンラン



カイツブリ



ハルゼミ（抜け殻）



ウソ

結いの森整備

滋賀事業所でスタートした生物多様性保全活動「結いプロジェクト*」の一環として、「結いの森」（保全池・学習広場等）を整備しました。地域特有のアカマツ林や希少種であるヤマトサンショウウオなどの生物多様性保全を行うとともに社内外の学習の場として活用しています。

* 結いプロジェクトとは、生物多様性保全を通じて、「水と緑」、「人と自然」、「人と人」を結び付ける諸活動

自然と触れ合う機会づくり



滋賀事業所では、生息する多くの動植物に従業員が触れ合う機会として専門家を交えた自然観察会、事業所にある自然の素材を使ったクリスマスリース作りや苔玉作りイベントなどを開催しています。2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止しました。

社外での活動

滋賀グリーン活動ネットワーク「生物多様性と環境・CSR 研究会」への参画



セミナーの様子

一般社団法人滋賀グリーン活動ネットワーク（SGN）内に設立されたワーキンググループ「生物多様性と環境・CSR 研究会」に 2015 年から発起団体として参画しています。「生物多様性の基礎知識を学ぶ場の創出」「生物多様性分野を中心とする CSR 活動の最新動向を知る場の創出」「会員同士の交流の場の創出」を目的に、会員向けセミナーなどのイベントを企画開催しています。

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 生物多様性保全

企業連携によるトンボ保全活動「生物多様性びわ湖ネットワーク」への参画



企画展示（琵琶湖博物館）の様子

滋賀事業所の近隣企業 8 社 * で「生物多様性びわ湖ネットワーク」を 2016 年に立ち上げ、県内で確認されている 100 種のトンボを指標とした生物多様性保全活動を展開しています。「トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え!～」と題したプロジェクトでは、①滋賀県のトンボ 100 種を探そう、②守ろう、③みんなに知らせよう、の 3 つの作戦を掲げて、企業敷地での定期的なモニタリング、ビオトープの整備や外来生物の駆除、自然観察会や活動の展示・発表、周辺地域の自然の現状把握、などに取り組んでいます。

* 旭化成株式会社、旭化成住工株式会社、オムロン株式会社、積水化学工業株式会社、積水樹脂株式会社、ダイハツ工業株式会社、ヤンマーホールディングス株式会社、株式会社ダイフク

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

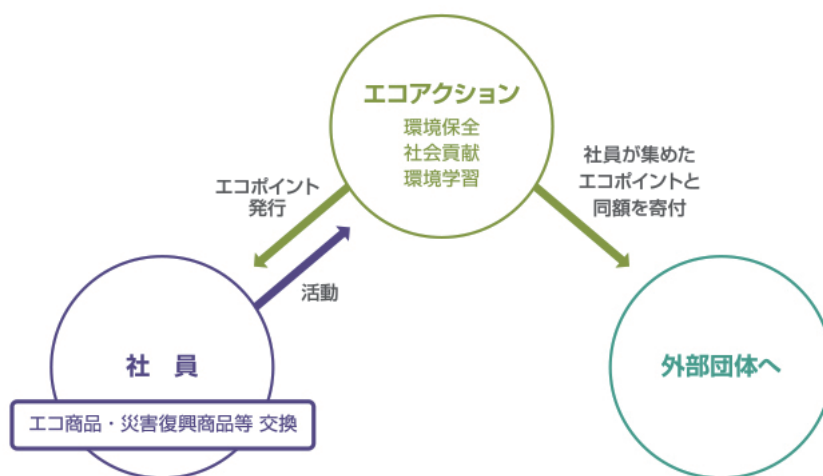
目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境経営基盤

環境経営基盤

ダイフクエコアクション制度

環境貢献をより身近に感じられるように、従業員の環境活動に対してエコポイントを付与する「DAIFUKU エコアクション」制度を2012年にスタートしました。各地でエコアクションメニューを用意し、2020年度は、延べ7,122名がボランティア活動や環境学習に参加しました。

獲得したエコポイントは、エコ商品などに交換することができます。また、本制度では会社からエコポイントと同等の金額を外部団体へ寄付します。



エコアクションイベント紹介（一例）

メニュー	内容・目的	2020年度 延べ参加者数
エコフィールドレポート	自然公園、動物園、博物館、環境施設などでの体験を通じて、環境を学習する	247名
エコクイズ	社内報にエコクイズを出題。環境に関する情報を発信し、知識を習得する	2,773名
環境家計簿	家庭での電気・水道などの使用量を入力し、見える化。省エネ意識を高める試み	112名
琵琶湖ヨシ刈り活動	琵琶湖の水質浄化に役立ち、ヨシを守るための保全サイクルに参画する	—
外来魚釣り大会	琵琶湖の生態系を守るため、外来魚を駆除することで繁殖を抑える取り組み	—
打ち水大作戦	都市部のヒートアイランド対策として、社外団体・企業と連携した打ち水イベントに参画	—

目次	ダイフクの 価値創造	CSR マネジメント	CSR アクション	ガバナンス	ESG データ集	社外からの 評価	CSR に関する 情報開示に ついて
----	---------------	---------------	--------------	-------	----------	-------------	--------------------------

目次 > CSR アクション > 企業活動を通じた環境貢献 > 環境経営基盤

参加者の推移

KPI

昨年に続き、従業員のマインドアップにつながる企画を実施しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止によるイベント中止の影響で、目標の 8,000 名に対し 7,122 名と未達となりました。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	
			目標	実績
延べ参加人数	6,458 名	13,403 名	8,000 名	7,122 名

寄付

2020 年度は、従業員参加型の環境活動「DAIFUKU エコアクション制度」の一環として、以下の寄付を行いました。

寄付先	金額	内容
【継続】9 年目 滋賀県立琵琶湖博物館	100 万円 (前年：100 万円)	博物館リニューアル事業費
【継続】8 年目 日に新館カーボン・オフセット	46 万円 (前年：53 万円)	日に新館の排出 CO ₂ および来館者の移動に伴う CO ₂ に相当する地域の削減枠への拠出を通じてオフセット
【継続】7 年目 国連生物多様性の 10 年 日本委員会	120 万円 (前年：120 万円)	生物多様性保全の主流化に向けた国民への認知度向上を目的とした各種事業
【継続】3 年目 一般社団法人 滋賀グリーン活動 ネットワーク	15 万円 (前年：20 万円)	環境負荷低減推進のための普及啓発セミナーやイベントの開催
【継続】2 年目 公益財団法人 日本自然保護協会	20 万円 (前年：20 万円)	自然環境保全のための調査研究、普及啓発を目的とした各種事業
【新規】 脱炭素チャレンジカップ実行委員会	10 万円	地球環境温暖化防止を募集し、発表の場を設けることで情報共有や活動促進を目的とした大会

D-EMS (DAIFUKU Eco Management System)

KPI

グローバルでの環境データのタイムリーな把握と、実効性のある環境負荷低減を目的として、2017 年 1 月から環境情報管理ツール (D-EMS) を導入しました。各事業所 (海外現地法人含む) からの環境情報を月次報告することで、環境データの収集・集計・分析を行い、環境目標の達成に役立てています。2020 年度の全社展開率は 96.3% の実績となり、海外の現地法人に周知しきれなかったため目標の 100% を未達成でした。サステナビリティ委員会において対策を共有の上、グローバルでの環境データの把握に注力していきます。